

一月見座頭 | 座頭 野村 万作



宮城県民会館開館60周年記念

笑いの芸術

野村万作・萬齋

狂言公演

千切木 | 太郎 野村萬齋



狂言 千切木
ちぎりき

狂言 月見座頭
つきみざとう

狂言 舟ふな
ふねふな

解説 高野和憲

主 石田幸雄

主 中村修一

座頭 野村万作

上京の男 高野和憲

当屋 野村萬齋

太郎冠者 深田博治

立衆 月崎晴夫

立衆 内藤連

立衆 飯田豪

妻 岡聡史

後見 野村裕基



人間国宝 野村 万作



野村 萬齋



野村 裕基



石田 幸雄

舟ふな | 主 石田幸雄



開場 午後6時

開演 午後7時

令和6年9月20日(金)

東京エレクトロンホール宮城 大ホール

とき

ところ

入場料

全席指定

S席 6,000円

A席 4,500円

学生席 1,500円

前売券発売日 令和6年6月7日(金)午前10時~

※学生席は東京エレクトロンホール宮城のみでの販売となります。ご購入時学生証をご提示ください。※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

プレイガイド

藤崎、東京エレクトロンホール宮城、河北チケットセンター TEL.022(211)1189【平日午前10時~午後2時】、チケットぴあ(Pコード:526-650)、ローソンチケット(Lコード:21555)

お問い合わせ

●東京エレクトロンホール宮城 / TEL.022(225)8641 ●河北新報社 事業部 / TEL.022(211)1332【平日午前10時~午後5時】
※東京エレクトロンホール宮城では、インターネット・電話予約を受付けております。チケットは、最寄りのセブンイレブン又は東京エレクトロンホール宮城の事務室窓口でお引き取りいただけます。(https://miyagi-hall.jp/)

主催

公益財団法人宮城県文化振興財団
河北新報社

共催



みやぎ県民文化創造の祭典
実行委員会

※マスクの着用等基本的な感染対策に御協力いただく場合がございます。

あ ら す じ

狂言 舟ふな ふねふな

主人が太郎冠者を連れて西宮見物に行く途中、神崎の渡しに着く。太郎冠者が渡しの舟に向かって「フナやーい」と呼ぶので、主人が「フネ」と呼ぶようにたしなめると、太郎冠者は古歌を引き合いに出して「フナ」が正しいのだと言い張る。主人も別の古歌で応酬するが納得せず、次々と別の古歌を引き合いに出してくる。主人は同じ歌しか思い浮かばず、苦戦を強いられているところに、ある謡の一節を思い出し…。

違っているはずなのに賢そうな太郎冠者と、正しいはずなのにとぼけた主の応酬が見どころです。言葉遊びの軽妙な味わいをお楽しみ下さい。

狂言 月見座頭 つきみざとう

仲秋の名月の夜。座頭が河原で虫の音に聞き惚れていると、洛中から月見にきたという若い男が声をかける。歌の詠み合いで意気投合した二人は、謡いつ舞いつささやかな酒宴を楽しむ。和やかなうちに別れの挨拶をかわし、座頭は気分良く帰途に着くが、突然…。

月夜の酒宴を楽しむ和やかな雰囲気が一転、意外な結末を迎えます。人間心理の不条理をシンプルに描く佳作です。

狂言 千切木 ちぎりき

連歌の会の頭(当屋)になった男が、太郎冠者に会の仲間を呼びに行かせる。皆が集まって歌を考えていると、仲間はずれにされた太郎がやってくる。自分を呼ばなかったことに腹を立てた太郎は、当屋の家の掛け軸や花に難癖をつけこきおろす。怒った人々は、太郎を打ちめし放り出してしまう。事件を聞きつけた太郎の妻は、しぶる太郎にむりやり棒を持たせ、仕返しに行くよう叱咤激励するのだが…。

題名の千切木は、時機に遅れて役に立たないという意味の「諍い果てての千切木」という諺からとられた言葉です。弱虫の割には強がる夫と、気は強いが夫思いの妻のやりとりの妙をお楽しみ下さい。

主な出演者の紹介



野村 万作

のむら まんさく

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、文化功労者。日本芸術院会員。2023年文化勲章を受章。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。3歳で初舞台。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ品格ある芸で国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。芸術祭大賞、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、長谷川伸賞、旭日小綬章、中日文化賞、ニューヨーク・ジャパンソサエティ賞等、受賞多数。早稲田大学芸術功労者、練馬区名誉区民。「月に憑かれたピエロ」「子午線の祀り」「法螺侍」「敦一山月記・名人伝一」等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。後進の指導にも尽力。著書に『太郎冠者を生きる』(白水社uブックス)、『狂言を生きる』(朝日出版社)等。練馬文化センター名誉館長。



野村 萬斎

のむら まんさい

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に出演する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、「敦一山月記・名人伝一」「マクベス」「子午線の祀り」「能狂言『鬼滅の刃』」「ハムレット」はじめ古典の技法を駆使した作品の演出など、現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとりとして幅広く活躍。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞等受賞多数。21年観世寿夫記念法政大学能楽賞、22年松尾芸能大賞受賞。石川県立音楽堂邦楽監督、東京芸術大学客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。



野村 裕基

のむら ゆうき

1999年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。3歳の時に『靉猿』で初舞台後、子方として国内外を問わず多数の舞台に出演。17年『三番叟』、20年『奈須と市語』、22年『釣狐』を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として狂言・能の舞台を勤めている。23年3月、舞台『ハムレット』(世谷パブリックシアター、野村萬斎演出)でタイトルロールのハムレット役を務めた。能楽協会会員。



石田 幸雄

いしだ ゆきお

1949年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ「万作の会」の重鎮。「三番叟」「釣狐」「花子」等の大曲を既に披露し、国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。06年『雙ノ会』で芸術祭大賞、11年観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより『敦一山月記・名人伝一』『国盗人』(野村萬斎演出)など新しい試みの舞台でも存在感を見せる。23年より「狂言師『石田幸雄』のソロ活動」で一人舞台にも取り組む。普及公演での的確な解説にも定評がある。

笑いの芸術「野村万作・萬斎 狂言公演」プレセミナー

日時

令和6年 9月3日(火)

午後6時30分～午後7時30分(開場:午後5時30分)

会場

東京エレクトロンホール宮城
6階601大会議室

講師

万作の会 石田 幸雄

上演される演目の内容や狂言の歴史等について知識を深め、日本の古典芸能に親しんでいただくことを目的としたセミナーです。

受講料

■全席自由 500円(税込み)

■受講定員 / 100名程度

■募集期間 / 令和6年6月7日(金)～
定員になり次第受付終了

■申込方法 / 東京エレクトロンホール宮城
窓口のみでの販売(受講券発行)